

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔 3 〕 議員名〔 大西 尚子 〕

1 年 月 日	令和7年10月27日（日数 1日）
2 場 所	東京都千代田区平河町 都市センターホテル 3階 （コスモスホール）
3 視察・研修事項	全国自治会病院経営都市議会協議会 （第19回地域医療政策セミナー）
4 面 接 者	① 医療をめぐる諸課題について（厚生労働大臣官房審議官・榊原毅氏） ② 健康の社会的決定要因の視点から地域の健康を考える・東京科学大学 大学院医歯総合研究科・相田潤氏

5. 視察研修・研修会の成果

①「2040年に向けた医療提供体制の総合的な改革と地域医療の諸課題」を受けて今回の講話で衝撃を受けたのは、2040年には岐阜県の医師・診療所数が2022年比で「50%以上減少する」という予測データです。これは、これまでの延長線上にある対策では、到底、地域医療を守り抜くことができないということになります。

これからの医療は、病気を「治す」だけでなく、在宅を含めて地域全体で「支える」体制へのシフトが不可欠です。下呂市においても、限られた医療資源をいかに効率よく配置するかが、市民の命を守る直結の課題となります。

【下呂市への反映として】 予測される医師不足を補完するためには、オンライン診療の早期導入や、医療DXによる病院・介護施設間のリアルタイムな情報共有が必要になってきます。「地域医療介護総合確保基金」などの財源を戦略的に活用し、デジタルと多職種連携を組み合わせた、本市独自の持続可能な医療モデルの構築に全力を尽くすべきだと認識いたしました。

②「健康の社会的決定要因(SDH)から地域の健康を考える」を受けて

「健康は個人の努力次第」という自己責任論だけでは限界があることを、エビデンスに基づいたデータが物語っていました。居住環境や経済状況、そして何より「人のつながり(ソーシャル・キャピタル)」がいかに寿命や健康格差に影響を与えるかという視点は、今後の福祉政策を考える上で極めて重要だと思いました。

特に、コロナ禍で浮き彫りになったひとり親世帯の子どもの体重減少や、歯科疾患が低所得層で深刻化している現状は、社会構造が生んだ課題であり、政治が介入すべき領域です。「自然に健康になれる環境」をいかに作るか、その重要性を痛感しました。

【下呂市への反映として】 下呂市においても、孤立を防ぐ「サロン活動」などの交流の場が、結果として要介護認定や認知症の抑制につながることを重視すべきだと思えます。また、歯科保健の充実を「全身の健康維持」と「社会参加の基盤」と捉え直し、子どもから働く世代まで、置かれた環境にかかわらず誰もが健康的な選択ができる「ポピュレーションアプローチ(集団全体への底上げ)」を、改めて教育や産業の現場と連携して推進することが必要だと思いました。

今回の研修を通じて、医療の外側にある「人のつながり」が、最大の健康維持装置であることを学びました。2040年の危機を乗り越えるため、デジタルによる効率化と、アナログな地域コミュニティの再構築を両輪で進める政策提言に繋げていけるように精進したいと思います。参加させていただきありがとうございました。